

現行計画の主な取組・成果について

1 柱ごとの主な取組・成果について

本県では、令和 3（2021）年度から令和 7（2025）年度において、「福岡県文化芸術振興基本計画」に基づき各種施策を実施。主な取組・成果は、下記のとおり。

※記載中の延べ数は計画期間中の令和 3（2021）年度から令和 6（2025）年度の数値を記載。

（1）柱 1「文化芸術の振興」

①「ふくおか県芸術文化祭」の開催

平成 5（1993）年度から開催してきた「ふくおか県民文化祭」の名称を、令和 6（2024）年度に「ふくおか県芸術文化祭」に改め、年齢や障がいの有無などにかかわらず広く県民が多様な文化芸術を鑑賞・体験できるよう発展させた。10 月から 12 月にかけて、コンサートや演劇、美術展覧会など多彩なイベントを開催。延べ 64 万人以上（主催事業・共催事業・助成事業・参加事業の合計）が参加し、広く県民に文化芸術の鑑賞・参加・創造の機会を提供した。

②「新県立美術館」の整備の促進

令和 3（2021）年度に「新福岡県立美術館基本計画」を策定し、令和 4（2022）年度に公募型プロポーザルにより設計者を決定した。令和 5（2023）年度以降は基本設計・実施設計を行うとともに、ウェブサイトの運営やワークショップを開催するなど、令和 11（2029）年度の開館に向けて、着実に事業を実施している。

③能楽等の伝統芸能の継承・発展

「大濠公園能楽堂」において、能楽（能・狂言）等の公演の場を提供するとともに、初心者にも分かりやすい「能楽入門講座」や小中学生向けの「子ども能楽教室」を開催した。また、コロナ禍においては県内小中学校延べ 64 校に能楽師を派遣するアウトリーチ事業を実施するなど、子どもたちや若い世代を含めた県民が、能楽に直接触れる機会を多く提供した。

④伝統工芸品産業の振興

伝統工芸品産地での学生等を対象とした就業体験やインターンツアーの実施により、後継者の確保・育成を図るとともに、伝統工芸品の新商品開発支援や展示販売会・商談会の開催により販売を促進することで、伝統工芸品産業の振興に取り組んだ。

⑤文化財の保存・活用

建造物、美術工芸品、史跡等の記念物など、本県の文化財の所有者が行う保存修理・整備に対する助成を実施し、文化財の保存を推進した。また、「九州国立博物館」・「九州歴史資料館」において常設展・特別展やバックヤードツアーの開催などにより文化財の活用に取り組んだ。令和 7（2025）年度は、九州国立博物館開館 20 周年記念事業として、県内各地の祭・伝統行事の公演や、県内の高校生・

大学生によるパフォーマンス等を実施する。

⑥世界文化遺産の保存・活用

ユネスコ世界文化遺産である「明治日本の産業革命遺産」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」において、各構成資産を周遊するイベントの実施や各地域での展覧会を開催した。「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」においては、延べ 320 万人以上が来訪するなど、遺産群の価値の理解と来訪を促進した。

(2) 柱2「文化芸術に親しむことができる環境づくり」

①「アクロス福岡」における魅力ある公演等の開催

本県の文化施設の中核である「アクロス福岡」において、国内外における一流の音楽家による公演や、安価な入場料で楽しめる「ランチタイムコンサート」、小さな子ども連れの家族でも楽しめる「アクロス・クラシックフェスタ」等の文化振興事業を延べ 275 事業実施するなど、県民の文化芸術の鑑賞機会の充実を図った。

②「県立美術館」における展覧会等の開催

「県立美術館」において、県民から作品を公募する福岡県美術展覧会（県展）のほか、実行委員会展や企画展を開催するとともに、地域住民が参画する移動美術館展を県内各地域で開催するなど、魅力ある事業を展開し、県民の文化芸術の鑑賞機会の充実を図った。

③「福岡ジュニアオーケストラ」の活動を支援

「アクロス福岡」を活動の拠点とし、小学生から高校生までの約 60 名が在籍する「福岡ジュニアオーケストラ」の活動を支援した。成果の発表の場として、年 1 回アクロス福岡シンフォニーホールでの定期演奏会や、その他特別演奏会、ミニコンサート等を実施するなど、青少年の文化芸術活動の充実を図った。

④「子ども美術館・博物館無料鑑賞事業」の実施

新型コロナの影響で子どもたちが、直接、文化芸術に触れる機会が減少していた状況を踏まえ、令和 5 年（2023）度に限り、県立と市町村立の美術館や博物館など 38 施設の常設展において、小・中学生の入館料を無料化し、気軽に芸術作品や文化財等を鑑賞する機会を提供した。延べ 60 万人以上の小・中学生の利用料金を免除した。

⑤学校教育における文化芸術活動の支援

「県立美術館」「九州歴史資料館」において、学芸員等による展覧会の紹介やワークシートに沿った鑑賞活動であるスクール・ミュージアムを実施するとともに、「アクロス福岡」における音楽の出前授業（パーカッション等の体験）やプロの芸術家や伝統文化継承者等を学校等に派遣するふくおか県芸術文化祭「学校等芸術家派遣事業」の実施により、学校教育における文化芸術活動の充実を図った。

⑥「シニア美術展」や高齢者を対象とした文化交流大会の開催

県内高齢者の作品を募集・展示する「福岡県シニア美術展」の開催や県内高齢者が参加する短歌・俳句、囲碁・将棋等の種目を含む「福岡県ねんりんスポーツ・文化祭交流大会」の開催により、文化芸術活動を通じた高齢者の生きがいがづくり、世代間交流や社会参加を促進した。

⑦アーティスト・イン・レジデンスの実施

若手芸術家の育成を図るため、みやま市の旧上庄小学校に整備したスタジオを拠点に滞在制作を実施するとともに、制作した作品の展覧会を福岡県立美術館や九州芸文館で開催した。

⑧顕彰の実施

毎年、県の文化振興に顕著な功績のあった3つの個人や団体に「福岡県文化賞」を贈呈するとともに、長年の活動により地域文化の振興に貢献した個人・団体に「福岡県地域文化功労者表彰」を実施し、県民の幅広い文化活動を促進し、本県文化の向上・発展を図った。

⑨「福岡県景観大会」の実施

県内各地域のまちづくりの取組の発表やまちづくり団体の活動を紹介するパネルの展示などを行う「福岡県景観大会」を開催し、県内各地域の文化資源でもある良好な景観の保全・活用を図った。

(3) 柱3「障がいのある人の文化芸術活動の推進」

①劇場体験プログラム「劇場って楽しい！！」の実施

「アクロス福岡」において、知的・発達障がい児（者）に向けての劇場体験プログラム「劇場って楽しい！！」を年に1回実施した。本コンサートでは、手話通訳・字幕表示を行うとともに、チラシへ音声コードの説明を加えるなど、視覚・聴覚に障がいのある人でも楽しめるように努めた。参加者は延べ1,700人以上であり、障がいのある人の鑑賞の機会の拡大を図った。

②「ピープルアートパフォーマンス」の開催

「ももち文化センター」において、多様な背景を持つ当事者団体の芸術活動の発表の場である「ピープルアートパフォーマンス」を開催した。開催においては手話通訳や字幕投影を実施し、障がいのある人の発表の機会を創出するとともに鑑賞の機会の拡大を図った。

③「ふくおか県障がい児者美術展」の開催

県内の障がい児者による美術作品（絵画、書道、写真）を集め、美術展覧会を開催した。毎年600を超える応募の中から受賞者を決定し表彰を行い、障がいのある人が創造した作品を発表する機会の拡大を図った。

④「まごころアート FUKUOKA GALLERY 事業」の実施

障がいのある人が制作したアート作品のレプリカ及び画像データを官公庁・企業・団体等へ有料でレンタル・販売し、その料金の一部（30％）を作品制作者に還元する「まごころアート FUKUOKA GALLERY 事業」を実施し、作品の販売や収益の向上につながる仕組みづくりに取り組んだ。

⑤「福岡県障がい者芸術文化活動支援センター（FACT）」の運営

「福岡県障がい者芸術文化活動支援センター（FACT）」において、障がいのある人の文化芸術活動に関する相談支援や人材育成を目的としたセミナーの開催、関係者のネットワークを構築するなど、創作活動を支える体制づくりに努めた。

（4）柱4「文化芸術を活用した地域づくりと魅力の発信」

①「地域伝統行事お助け隊」による派遣の実施

伝統行事の担い手確保を支援するため、令和5（2023）年度に「地域伝統行事お助け隊」を創設し、要請のあった伝統行事にお助け隊を派遣した。延べ13の伝統行事に派遣を実施し、伝統行事の継承と地域活性化に貢献した。

②アーティスト・イン・レジデンスの実施

若手音楽家が、日田彦山線沿線地域に滞在し、地域の風土、歴史、文化に触れ、そして地域住民との触れ合いの中で感じ取ったものを元に作曲し、演奏会で披露した。

③「文化芸術イノベーションアカデミー」の開催

令和6（2024）年度から、公立文化施設や市町村職員を対象とした研修会「文化芸術イノベーションアカデミー」を開始した。開催初年度は全4回、延べ216人が参加し、地域の文化芸術に携わる人材の育成を図った。

④「アクロスおでかけナビ」による情報提供事業の実施

「文化観光情報ひろば」やウェブサイト「アクロスおでかけナビ」において、九州・山口エリアの音楽公演、演劇公演、文化講座、祭りなどの情報の収集・提供を実施。「アクロスおでかけナビ」のアクセス件数は延べ28万件以上であり、本県の魅力を効果的に発信した。

⑤「匠ギャラリー」を活用した伝統工芸品の魅力発信

カフェ、物販コーナー及び多目的スペースを併設した「匠ギャラリー」を令和5（2023）年3月にリニューアルオープン。伝統工芸品等を常設展示するとともに、県内各地域で製作された伝統工芸品等を紹介・販売する展示会や製作の実演、体験を実施する展示会を定期的に開催した。延べ約70万人が来場するなど、本県の伝統工芸品の魅力を発信した。